

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600070		
法人名	社会福祉法人ひまわり会		
事業所名	永寿園グループホームひむかてらす	ユニット名	1ユニット
所在地	宮崎県日向市大字富高6957番地1		
自己評価作成日	平成28年6月13日	評価結果市町村受理日	平成28年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanitrue&amp;lievsvoCd=4590600070-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanitrue&amp;lievsvoCd=4590600070-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して5年目を迎えることができた。事業所前の公園に、昨年地区の方があじさいを植えられ、今年はきれいに咲いた。春は桜、5月に若葉、6月にあじさい、9月に彼岸花、11月紅葉、1月水仙と四季折々に季節を感じる事ができ、環境面はとて素晴らしいところ。また、公園に小学生、保育園児、地区の方々が訪れます。保育園児とは時々交流しています。地区のいきいきサロンに数名が参加し、昨年は2回場所を提供し、地域の方がたくさん訪問してくれました。昨年度は温泉や牧水公園、西都原までお花見に外出してきました。皆様とても喜ばれ、表情がいきいきしておりました。今年度もご利用者と共に笑いのある生活にしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公園に隣接する高台にあり、落ち着いた環境の中、法人が掲げる理念を共有、実践するため、管理者を中心に職員が一つになり、利用者の気持ちに寄り添ったサービスの提供を行っている。また、地域のいきいきサロンの集まりに会場を提供したりと、積極的に地域との絆を深め、地域の人々に開かれたホームにすることで、利用者の地域との関わりを大切にしている。利用者の個別ニーズに対応できるよう、研修会や資格取得支援を行い、調理担当職員や清掃担当職員、介護担当職員を配置することで、専門性を高め、よりよいサービスの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域ケアステーション永寿園としての理念を昨年作成し、会議時に唱和するようにしている。また、理念を事務所に貼って目につくようにしている。	全職員でミーティング等で話し合いながら理念を共有し、常に念頭に置き、利用者の気持ちに寄り添って支援するよう努めている。	地域密着型サービスの意義を全職員で考え、ホーム独自の理念を作り、共有、実践につなげることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのあいさつは意識して行い、行事にも積極的に参加している。前の公園に保育園児や小学生が遠足に来ている時は散歩するようにしている。	隣接する公園に訪れる人と積極的に交流できるように、散歩の時間を合わせるなどの工夫をしている。また、地域のいきいきサロンの会場として場所を提供するなど、交流の場づくりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンに3名～5名のご利用者が参加している。昨年10月と11月と続けて2回、場所を提供し、地域の方がたくさん来られた。カルタ大会を行い、とても盛り上がった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。事例の発表や避難訓練を運営推進委員の消防団部長に指導してもらった時のスライドをみていただいた。毎回、意見などを活発に出していただいている。	関係機関や家族などが多く参加し、ヒヤリハットの報告、ホームでの活動報告、今後の課題などを積極的に公開し、活発な意見をもらう中で、それをサービスに生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日向市高齢者あんしん課の担当者に委員として参加してもらっている。昨年は監査もあり、ケアプランについても指導していただいた。	運営推進会議に市の担当職員も参加してもらうなど、常に相談、協力を求められる関係にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修は毎年行っている。今年は事例を通して、身体拘束の弊害について学んだ。	研修を繰り返し行うなど、その弊害を念頭に置いて支援している。また、「行きますか？」など疑問文の形で対応し、本人に自己決定してもらうよう心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について毎年研修を行い、外部の研修にも昨年は参加し、職員に復命し伝達した。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方はいないが、情報を提供していきたい。研修は昨年行っていないので、今年度は行っていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約の重要事項説明と重度化に伴っての説明を行っている。この時に、不安なことや要望も聞いているが、この時点でなかなかでないこともあるので、面会時にいつでも話してもらうように伝えた。面会時に職員より様子などを報告し、話しやすい雰囲気を作るようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者に日頃から何でも話していただくように声かけを多くし、要望や希望を聞いている。また、食べたい物や行事などの意見を出してもらっている。		日頃から要望を聞きだせるよう、本人や家族に声掛けを行っている。特に、食べたいものや行事に対する意見はよく出るので、できる限り意向に沿うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、園内研修時、職員との面談時に要望や意見を聞いて上司に伝えるようにしている。働きやすい、生きがいのもてる職場づくりを心がけている。		管理者は、常に職員の気づきやアイデアに耳を傾けている。また、ミーティングや研修、面接など、各職員の意見を聞き、話し合うことを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年度初めに目標を立てて、3か月ごとに達成状況を確認している。また、資格取得のために支援している。休憩が取れない時もあるが、今年度は意識して取るようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	永寿園全体の研修を年4回、事業所での研修を月1回行い、学びのレポートを提出している。外部の研修にも積極的に参加させてもらっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の研修や介護支援専門員の会に参加し、サービス内容などの情報収集を行い、サービスの向上につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく4名の方が入居された。入居されてからは声かけを多くし、なじみの関係が早く築けるようにし、ご本人の思いを聞くように心がけた。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時、契約時にご家族の希望や不安なことなどを聞き、また、ご利用者が早く慣れて、安心して過ごしていただくよう、ご家族に協力を頼み、一緒に支援したいことを伝えた。どんなことも連絡したいことを説明し、ご家族との信頼関係ができるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同じ地区の方が入居するにあたり、家が近いことで帰宅欲求が強い時は、ご家族に協力をお願いしたいことを相談した。入居されて、思うほど混乱なく生活でき、ご家族も安心された。事前にご家族、職員間で帰宅欲求時の対応について相談できたことはよかった。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ができることは継続して行っていたが、また、出来そうなことは一緒に行いながら、ADLの維持に繋げている。やさしい言葉かけ、同じ目線で話すように心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	娘様が仕事が休みの度に宮崎から来られ、半日外出されている。ケアプランにご家族との面会、外出したいことを目標にして協力してもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家が近いので、時々ご家族が1時間ほど帰ってきたりしている。また、いきいきサロンに参加して、近所の方々と楽しく話されていた。	定期の墓参り、家族の来訪や外出などをケアプランに入れ、これまでの生活が途切れないよう支援に努めている。また、ホームで行われるいきいきサロンへの参加で、なじみの方々と交流が保てるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係が出来ている方がいて、なかなか受け入れていただくまでに時間がかかったが、一緒に洗濯物たたみや作業を行うことで、受け入れてくれるようになってきた。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入居された方の情報を提供している。また、ご利用者と面会に行っている。ご家族からも相談があった。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや希望、要望を担当職員を中心に聞き、把握に努めている。思いや要望をご家族と相談しながら叶えられるようにしている。あるご利用者は、居室が端で、窓の外を知らない人が通るから不安だと相談され、ちょうど空いていたため移動すると安心されていた。	担当職員を中心に、利用者の意向の把握に努めている。「あなたらしさ」を介護方針の一つとしており、寝る時間やトイレ誘導など、一人ひとりの思いを大切に支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については、ご本人、ご家族よりお聞きしているが、新聞を通して身近な記事、例えば細島の記事が出ると「昔は海の家があった。みな取りに行きよった」などと話が出て、他の方もその話に合わせて色々な話題が出て、馴染みの場所を知ることができた。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできることを職員間で情報共有している。月1回のミーティング時に状況の確認を行ったり、日々の様子を日誌や連絡ノートにて共有し、把握する努力をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや要望、希望をお聞きした上でモニタリングを行い、アセスメントにつないで、介護計画書を作成し、ミーティングで話し合い、ご本人、ご家族に説明し、同意を得ている。	来訪時などに介護プランについての要望を聞くようにしている。的確なモニタリングを行うことの重要性を認識しており、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録し、ミーティング時にモニタリングと月のまとめを行いながら、介護計画書の見直しに活かしている。いつもとちがうことは日誌と連絡ノートに記入し、職員間で共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他の事業所3か所合同にて、お花見、遠足を行った。			

宮崎県日向市 永寿園グループホームひむかてらす(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきいきサロンに数名が参加している。昨年度は場所を年2回提供した。小学生の通学時の見送り、幼稚園、保育園児との交流会、読み聞かせボランティア、高校生のボランティア、地区のアコーディオン演奏者の訪問、美容室の訪問等、地域資源を活用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の先生が月1回、生活の様子を見ながら往診してもらっている。また、地元の歯医者への受診も増えてきた。他の主治医への受診は、ご家族の協力が増えてきた。	協力医の往診が毎月1回ある。家族による受診対応や職員の受診同行の際は、日頃の状態をまとめて医師に伝えるなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身状態、皮膚の状態などで気づいたことは看護職員に見てもらい、相談している。また、夜間の緊急時は連絡を取り、指示をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご利用者の情報を提供している。ご家族、病院より状況の連絡もあり、お見舞い時はケースワーカー、看護職員より状況をお聞きし、退院に向けて相談している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期についての説明を行っている。今回、特養の増設に伴い、心身の状態の低下、医療が必要になってきたご利用者においては、ご家族と相談して特養の方へ入居となった。	契約時に、書面をもって、できること・できないことの説明をし、対応に係る指針を家族と共有している。心身の状況に応じた施設の提案を行う場合、家族と十分相談してその支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や救急蘇生法、AEDの使用方法など、定期的に研修し、実践につなげるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画(台所火災想定、地震想定など)を立て、月1回訓練を行っている。3月は地域の消防団部長に避難訓練の様子を見てもらい、指導してもらった。避難時の水は保管したが、避難食は準備できなかった。	年間計画の下、地域の消防団の指導をもらい、避難訓練を行うなど、実践的な訓練を全職員で行っている。また、発災時地域の避難所となっていることから水の備蓄も行っている。	地域との良好な関係を生かし、職員と近隣協力者との具体的な役割を取り決めるなど、災害時の協力体制づくりに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、やさしい言葉かけを行うようにしている。特に排泄時の声かけや入浴時はプライバシーを損なわないように気をつけている。居室に入る時はご本人に了解を得ているが、難しい方もいる。		各利用者に対し言葉を選び、親しい仲でも礼儀をわきまえ、不快な言葉かけをしないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる言葉かけを職員が意識して行い、ご利用者が選んでいただくようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	落ち着かないひとつの要因として排便前であることがあり、その時は散歩したりして対応している。また、他の方で落ち着かない様子の時は、食事の買い物の外出などをして気分転換を図っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にそって美容室に髪染めに行かされている。起床時に整容に気をつけている。毎朝化粧される方もいる。また、食後汚れたら、更衣するようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じてつわやタケノコの皮むきを行い、食事時に提供している。また、食事前に盛り付けやテーブル拭きを手伝ってもらっている。個々に応じて、食器洗い、お盆拭き、テーブル拭きなどを行っている。飲み込みの悪い方に好きなもの、飲み込みやすいものを提供したり、水分も水分補給ゼリーで対応した。		持てる能力を生かしながら、調理の下準備や盛り付け、テーブル拭きなどを職員と共に行ってもらい、栄養バランスの良い食事を一緒にゆっくりと食している。また、身体能力にあわせ、飲み物の形状を工夫しながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は全員毎食後、チェックしている。水分量は4名の方が1000mlを目標にチェックしている。水分についてはお茶の飲み込みが悪い方、なかなかお茶を飲まない方に水分補給ゼリーを作り対応することで、水分量が増えた。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後声をかけて行っている。一人でできない方は介助している。口を開けない方もいて、2人で介助を行っていた。うがいが出来ない方はガーゼで口腔内を拭いて清潔に心がけた。			

自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、チェック表へ記入し、時間をみて声かけを行っている。しかし、声かけに応じず失禁され、尿臭がある時があり、どう対応するか検討している。夜間はトイレの声かけ、ポータブルトイレ、ナイトパットを使用するなど、個々に応じて支援を行っている。		ポータブルトイレを使用するなど、身体状況や認知症状を観察しながら、個々に応じた支援方法を決めている。声かけに応じず、失禁する利用者への対応方法などを職員で検討しながら、適切な対応ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取したり、運動したりと便秘の予防を行っている。2日排便がない時に夕食後に下剤を服用していたが、すぐその後に排便があることがあり、服用時間を検討した。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日置きに入浴を行っているが、その日の状態で拒否されることがあり、様子を見ながら、声かけを工夫して入ってもらっている。入浴時はゆっくり話す時間として大切にしている。		1日おきの入浴となっているが、個々の希望にあわせ入浴できるようにしている。一人ずつゆっくり入浴してもらい、職員とのコミュニケーションの場としても大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールで過ごしていただいている。状態に応じて昼寝も行っている。寝る前に何度もトイレへ行かれる方もいるが、見守りながら、休む前に布団をかけて「おやすみなさい」と言うと休む時もある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員を中心に、薬の変更があった時は勤務している職員には直接、そして連絡ノートに記載し、情報を共有している。ミーティングで、薬の変更の内容、状態の報告などを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみ、お盆拭きなど、個々に応じて役割が決まってきたように思える。誕生日はご本人の希望にそって外食したり、好きな料理でお祝いしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れた日は歩行訓練を兼ねて周辺の散歩を行っている。小学生の通学時の見送りは、老人クラブの方と一緒にいった。また、日曜日はドライブの日として馴染みの場所や季節の花を見に行ったりした。		ウッドデッキや犬走りを利用し、ホームを安全に一周したり、隣接の公園を毎日の散歩コースとしている。ドライブや地域行事への参加など、利用者の希望に沿うよう、ご家族と協力して支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	1ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族が「いつもお金の心配をするので、2000円バッグに入れて置きます」とのことで、持っている方がいる。職員に紙に包んで渡すこともあり、その時は状態で預かっている。しかし、しばらくするとお金がないと心配することもある、再度入れなおすこともあった。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠いご家族より電話が時々かかってきて、お話しされている。「帰る」と外へ出ていくときは、ご家族に電話してもらい、迎えに来てもらったことがあった。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な温度、湿度については目で分かるように、壁に貼るようにした。また、季節に応じて花を飾ったりしている。	共用空間に季節に応じた花を飾り、利用者がゆっくりと居心地良く過ごせるよう工夫している。また、適切な温度、湿度管理を行い、ソファの配置も個々のプライバシーが保てるよう工夫して配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルの位置を変えることで、ご利用者同士のトラブルが減り、それぞれに座る位置が決まってきた。しかし、5月に入居・退居があり、まだ座るところを職員がご利用者の様子をみながら座っていただいている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす、毛布など、ご家族が持ってこられている。また、ご家族の写真を飾っておられ、話の輪が広がっている。	ベッドはホームで準備をするが、利用者に合わせて低床ベッドの準備もある。たんすなども持参でき、配置も自由である。壁に衣類掛けを設置しており、自分の好みで選択できるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室がわからず、他の方の居室へ入ろうとすることがあり、居室の前やトイレに大きく名前やトイレと書いて貼っている。			